

東日本大震災追悼集会

平成29年3月10日（金）2Fワークスペース

明日3月11日は、東日本大震災が発生した日です。

あれから6年がたちます。私たち日本全体が深い悲しみに包まれた日でした。6年たった今でも、たいせつな家族や友人を亡くした方や、被災した人たちの苦しみは続いています。そのことを忘れずに、いまでも悲しみ苦しんでおられる人たちに心をよせてほしいと思います。

今考えなければならないのは、みんなの未来です。今、何をしなければならないのか。それは、これからの福島の未来をみんなで切り開いていくことです。福島の現状を踏まえ、仲間とともに、「感謝」と「思いやり」の心をもって、明るい未来にしていきましょう。

みんなは今まで、たくさんの防災教育を受けてきました。三年生は二年生の時の学習旅行で、閑上地区で体験活動を行いました。そのときに感じたことをいつまでも心にとめておいてほしいと思います。三年生全員が真剣に考えた内容が作文として残っています。25人の文章を読み上げたいところですが、4名の作文の一部を紹介します。

「ビデオを見たり、話を聞いたりしてとても悲しくなりました。涙が出そうになりました。震災の日も、住民の人たちは互いに「おはようございます」とあいさつを交わして学校へ行ったり、出かけたりして幸せな朝を迎えていたんだろうと思います。それから…。2時46分に震災が起こりました。いつものようにあいさつをしたり、住民や家族と話をしたりしてきた日々はどれだけ楽しかったんでしょう。きっと、そこには「思いやり」があったのだろうと思います。心と心がつながっているからこそ、そんな日々が過ごせたのだろうと思います。」

「親よりも先に子どもが亡くなってしまったり、親が亡くなってしまい、おじいちゃんやおばあちゃんと過ごしている子どももいると知りました。子どもを亡くした親も親のいない子どももとても複雑な気持ちでずっといるのかと思うと、私も悲しいです。自分がもし、そうなったら耐えられるかわかりません。中学校も取り壊されてしまうというので、自分たちの校舎で勉強できていることが幸せだと思います。これからは一生懸命、生きたいです。」

「僕たちが、学校にいられること、ご飯を好きなだけ食べられること、帰られること、一秒一秒を大切にすること、このようなことを大切にして、生きていきたいです。」

「私たちは震災を経験して、2～3年違うところに住みましたが、津波はありませんでした。家もあります。転校した人もいますが、亡くなった友達はいません。それに私たちはマスク、乾パン、帽子、筆記用具、服、メッセージを日本各地はもちろん、海外からも数え切れないほど、いただきました。私たちには地震をなくすことなんて、津波を起こさないようにすることなんて、できませんが、自分たちがしてもらったように誰かを助けることはできると思います。」

今年も内堀雅雄福島県知事が「福島の未来へ2017～3月11日知事メッセージ」を発信します。新聞にも掲載されますので、ぜひ、読んでください。

ふくしまの子どもたちが、自分の夢や希望に向かって立ち上がり、歩み始めています。みんなも、それぞれの思いを胸に、新しいステージへ大きく踏み出していきましょう。